

ExTEND2005 疫学研究手法研究について

1. 基本的な考え方

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND2005-」においては、「個体レベルでのヒト健康影響と内分泌かく乱作用に関連する化学物質暴露の因果関係を把握することを可能とするような疫学的手法についても検討しておく必要がある。」としている(p21)。

2. 疫学研究手法研究班

以下に示した班員により疫学研究手法研究を実施する。

疫学研究手法研究班 班員名簿

岡山 明	国立循環器病センター 循環器病予防検診部 部長
加藤 貴彦	宮崎大学 医学部 社会医学講座 公衆衛生学分野 教授
佐藤 俊哉 (班長)	京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 医療統計学分野 教授
中井 里史	横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授
林 邦彦	群馬大学 医学部 保健学科 医療基礎学講座 教授
村田 勝敬	秋田大学 医学部 社会環境医学講座 環境保健学分野 教授
吉田 貴彦	旭川医科大学 健康科学講座 教授

3. 進捗状況

平成 17 年 12 月 19 日に平成 17 年度第 1 回 ExTEND2005 疫学研究手法研究班会議を開催し、研究班の今後の進め方及び化学物質の内分泌かく乱作用のヒト健康影響についての疫学研究手法について意見交換を行った。